

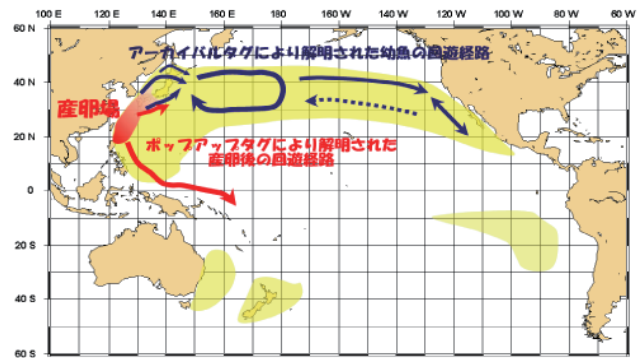
クロマグロ 太平洋

Pacific Bluefin Tuna, *Thunnus orientalis*



管理・関係機関

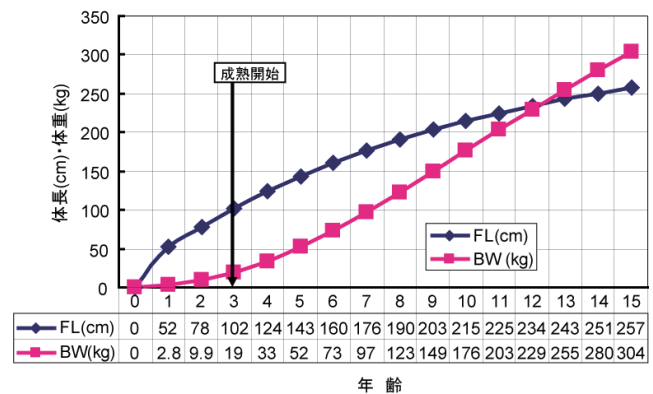
中西部太平洋まぐろ類委員会 (WCPFC)
 北太平洋におけるまぐろ類及びまぐろ類似種に関する国際科学委員会 (ISC)
 全米熱帯まぐろ類委員会 (IATTC)



クロマグロの分布と回遊

最近一年間の動き

2007年4、7、12月にISCクロマグロ作業部会が開催され、次回の資源評価のためのデータの見直しが行われた。東部太平洋のまき網による2007年の漁獲は約4,000トンとなり2006年の半分以下まで減少した。9月にはWCPFC北委員会が開催され、漁獲係数を現在以上に上げないための自主的な措置を求めた。



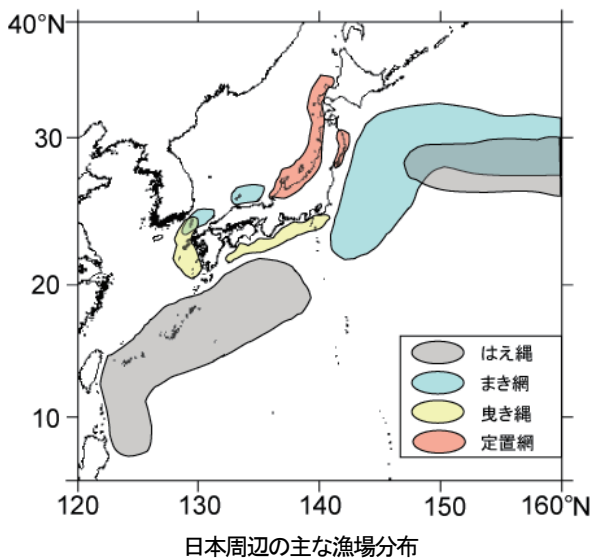
クロマグロの成長と成熟

生物学的特性

- 寿命：20歳以上
- 成熟開始年齢：3歳
- 産卵期・産卵場：日本南方～フィリピン沖で4～7月、日本海で7～8月
- 索餌場：温帯域
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類、他
- 捕食者：まぐろ類、シャチ、さめ類

利用・用途

刺身、すしなど



日本周辺の主な漁場分布

漁業の特徴

漁獲の大半はまき網による。西部太平洋では、日本・台湾・韓国が、沿岸でひき縄と定置網漁業で未成魚を中心に周年漁獲し、沖合ではまき網漁業で未成魚・成魚を夏季に漁獲している。沖合のはえ縄漁業はより大型の成魚を漁獲している。東部太平洋では5～10月に米国とメキシコがまき網で漁獲し、そのほとんどはメキシコで蓄養原魚となる。日本では0歳魚を用いた蓄養が行われている。

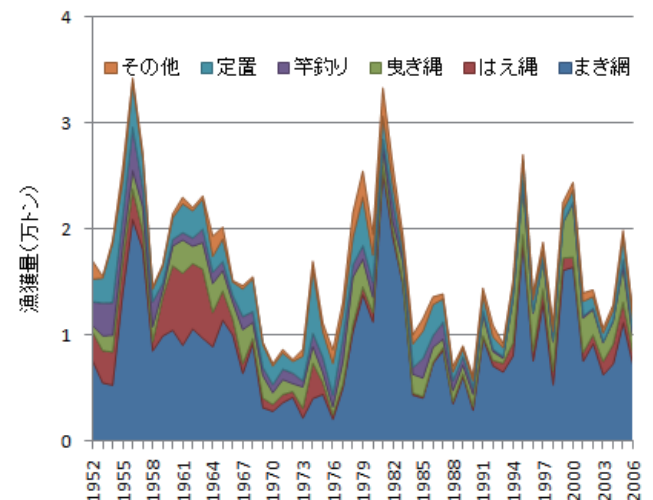
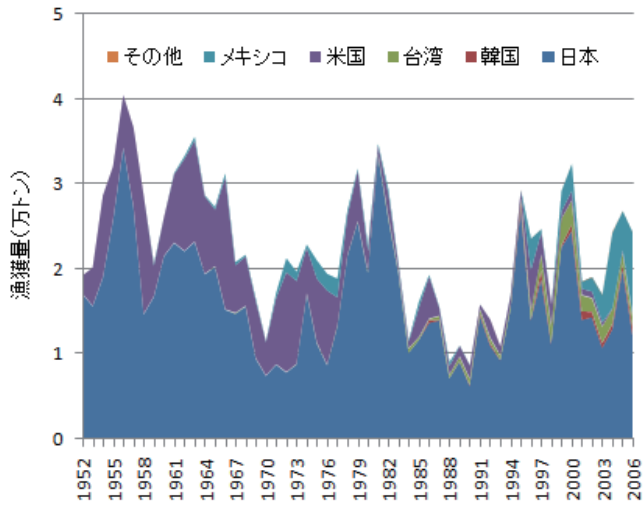


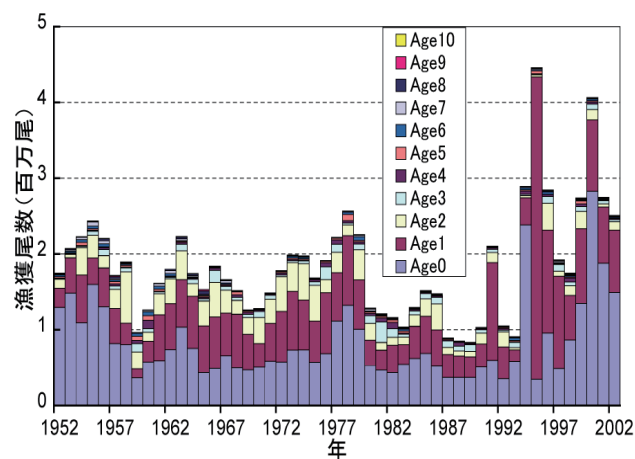
図3.日本の漁法別漁獲量の推移 (1952-2006)

漁業資源の動向

年間総漁獲量は8千~3万5千トンの間を周期的に変動している。近年では1981年に3万5千トン記録した後、1988年に8千トンまで落ち込んだ。1990年代以降は2万トン前後で安定している。2002~2006年の漁獲量は、西部太平洋で1万4千~2万1千トン、東部太平洋で2.5~10千トンと推測される。尾数では、漁獲物の8~9割は0~2歳魚で、最近では0歳魚が増える傾向にある。



国別漁獲量の推移 (1952-2006)



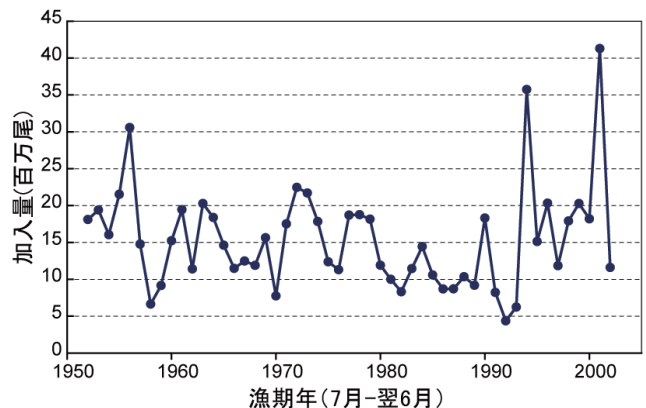
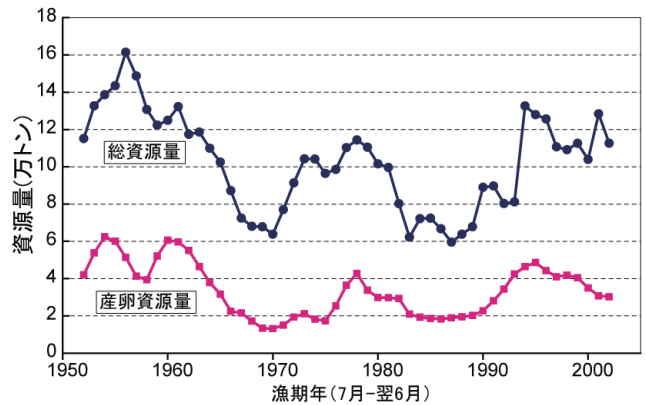
年齢別漁獲尾数の推移

資源状態

体長組成・漁獲量・資源量指数の不確実性のほか、成長などの生物学的知見にも大きな不確実性があることから、まだ資源状態について結論は出ていない。

管理方策

ISCは資源解析結果に非常に大きな不確実性があることから予防的措置として漁獲死亡率をこれ以上増やすべきでないと勧告した。ISCは2008年5月に資源評価を行い。それを受けてWCPFC北委員会は2008年9月に管理方策の検討を行うととし、それまでの間、加盟国に対して漁獲係数をこれ以上上げないための自主的な措置をとることを求めた。



VPA から推定された総資源量及び産卵親魚量 (上) 及び加入量(0歳魚) (下)

資源評価まとめ

- 資源評価はISCで実施
- 評価手法にはチューニングVPAを主体に、統合モデルを補足的に採用
- 資源状態は不確実性が大きく調査中

資源管理方策まとめ

- 資源解析結果は不確実性が高い
- ISCは2008年5月に資源評価を行う
- WCPFC北委員会は2008年9月に管理方策の検討を行う

クロマグロ(太平洋)の資源の現況(要約表)

資源水準	調査中
資源動向	調査中
世界の漁獲量 (最近5年間)	約17,000~27,000トン 平均: 約22,000トン
我が国の漁獲量 (最近5年間)	約11,000~20,000トン 平均: 約14,000トン